

GIFTS FROM
神からの
贈り物
GOD

もくじ

CHAPTER 1

必要を満たす人とは…2

CHAPTER 2

常識にとらわれた人…4

CHAPTER 3

この方がキリストなのでしょう…6

CHAPTER 4

ことばを信じるとは？…8

CHAPTER 5

パンを下さい…10

CHAPTER 6

あなたは誰ですか…12

CHAPTER 7

自分の主張を曲げない信者…14

CHAPTER 8

彼は何を知ったか…16

CHAPTER 9

はっきりそう言ってください…18

CHAPTER 10

死んで生きる…20

CHAPTER 11

すれ違い…22

CHAPTER 12

洗足…24

CHAPTER 13

ピラトの決断…26

CHAPTER 14

十字架上のイエスのそばにいた人たち…28

CHAPTER 15

復活したイエス…30

必要を満たす人とは

当時の東洋の文化習慣では、結婚式は花婿の家で行われ、花嫁より花婿のほうが人々の関心の的でした。結式は数日以上にわたって行われることもあり、当時の家族にとって、人生における最も重要な出来事の一つでした。ですから、どんな欠けや失敗も致命的汚点となったのです。

ヨハネの福音書 2章 1～11 節

◆2章：1 節～5 節

(1) 3 節に「ぶどう酒がなくなった」と記されています。

花婿にとってこの状況はどういうことを意味していましたか。

(2) イエスに「ぶどう酒がありません。」と言った母の気持ちを考えてみましょう。

(3 節)

(3) イエスの答えを読んで、どのようなことを感じますか。(4 節)

(4) 5 節で母がこのように言ったのはなぜだと思いますか。

◆2章：節6～11節

(5) 手伝いの人たちは、イエスに言われたことを実際に行う上でどのような問題を感じたと思いますか。(7～8節)

(6) 手伝いの人たちは、ぶどう酒になった水を味わってみて、どのようなことを感じたでしょうか。(9節)

(7) 世話役からこのようなことを言われた花婿は、どのようなことを考えていたでしょうか。(10節)

(8) この出来事は、イエスが最初に行った奇跡（しるし）でした。弟子たちはその様子を見ていました。この出来事によって、イエスは弟子たちにとってどのような存在になったと思いますか。

◆まとめ

人が宗教に求めることは、どのようなことでしょうか。あなたは、キリスト教はどのような必要に応えてくれるイメージを持っていますか。

イエスは、この奇跡によって、人の実際的で具体的な必要を満たしました。このイエスという人物に対して、あなたはどのような期待や疑いを持っていますか。

2000年前の人であるイエスは、私たちにとって想像するのが難しい存在です。これから14回の聖書研究の中で、このイエスがどのような方で、どのようなことをしたのかを学んでいきましょう。

常識にとらわれた人

パリサイ人たちは、ユダヤ人の中でも特に律法を厳格に守っていました。彼らは伝承(律法の解釈を集めたもの)にも律法と同じくらい権威があると考えて、伝承も律法と同様に厳格に守っていました。また彼らは、ユダヤ人の社会の中ではとても尊敬され、高い地位にある人たちでした。

ヨハネの福音書 3章 1～16節

◆3章：1節～10節

- (1) 1～2節から、ニコデモがどのような人物であることがわかりますか。
- (2) イエスは3節ではニコデモが尋ねなかったことについて語りました。
 - a) イエスはここで何について語っていますか。
 - b) それに対してニコデモはどのような反応をしましたか。(4節)
- (3) 5～8節で、イエスはニコデモに対し「新しく生まれる」ということをどのように説明していますか。
- (4) なぜニコデモはイエスの言ったことが理解できなかったのでしょうか。

◆3章：11節～16節

(5) 「人の子」とはイエス・キリストのことです。

a) ここでイエス・キリストは、自分はどのような者であると言っていますか。

(13節)

b) これから自分がどうなると言っていますか。(14～15節)

c) そしてそれは何のためなのですか。(16節)

(6) ここでイエスがニコデモだけでなく、私たちにわかってもらいたいと願っていることは何なのでしょう。

◆まとめ

- 1、あなたはこの箇所を、新しく生まれるということをどのように理解しましたか。
- 2、ニコデモは極めて常識にとらわれた知識人だったので、イエスのことばをなかなか理解できませんでした。世の中の一般常識と信仰とは、相容れないものなのでしょう。話し合ってみましょう。

この方がキリストなのでしょうか？

この箇所には、サマリア人と呼ばれる民族が出てきます。彼らはサマリア地方に住み、ユダヤ人から軽蔑されていました。ユダヤ人は自分たちの血筋(純血)に誇りを持っているため、異邦人であるカナン人とユダヤ人との混血であるサマリア人を忌み嫌ったのです。しかしイエスはあるとき、あえてそのサマリア地方を通られ、ひとりの女と出会いました。

ヨハネの福音書 4章 7～26節

◆4章：7節～15節

- (1) 突然話しかけてきたイエスについて、この女の人はどうのような印象を持ったと思いますか。
- (2) イエスは「水」のたとえを使ってユニークに話を展開しました。その中で自分自身についてどのような主張をしていますか。
- (3) イエスの主張に対して、この女の人はどうのように反応しましたか。そのときの女の人の関心事は何だったのでしょうか。

◆4章：16節～18節

(4) イエスはここで急に女の人の夫について話題を転換しました。イエスのことばを聞いたときの女の人の気持ちを考えてみましょう。

◆4章：19節～26節

(5) この女の人は、礼拝すべき場所について質問しています。

a) それに対して、イエスはどのように答えていますか。(21～24節)

b) 25節のことを、女の人はどのような気持ちから言ったのでしょうか。

◆まとめ

1、26節でイエスは女の人に、彼女が待ち望んでいるキリストは自分であると明言しました。この女の人は、イエスと出会うまでどのような生き方をしていたと思いますか。それについてあなたはどのように思いますか。

2、イエスとの出会いは、この女の人にどんな変化をもたらしましたか。

(28～29節)

ことばを信じるとは？

聖書にはイエスが病気を直す奇跡の記事が多く載っています。この箇所では病気の息子を持つ王室の役人が登場します。ここで「役人」と訳されていることばは、かなり地位の高い豪族を意味します。その高貴な役人が、カペナウムからはるばる30kmの道程をイエスに会いにやって来ました。イエスに出会ったときの役人や、その家族の変化を通して、「信じる」とはどういうことなのか一緒に考えてみましょう。

ヨハネの福音書 4章 46～54節

- (1) 47節「この人は、…イエスのところへ行き…」なぜ役人は近所の医者ではなく、はるばるイエスのところへ行ったのでしょうか。
- (2) 49節「主よ。どうか私の子どもが死なないうちに下って来てください。」この箇所
で役人は、この後どのような状況になることを期待したのでしょうか。また逆に、
どのようなことを恐れていたのでしょうか。
- (3) 50節「帰って行きなさい。あなたの息子は直っています。」「その人はイエスが言
われたことばを信じて、帰途についた。」イエスの答えを聞いて、役人はどのよう
な気持ちがしたと思いますか。

(4) 52～53 節を見ると、何によって子どもの病気が直ったことがわかりますか。

(5) 53 節「そして彼自身と彼の家の者がみな信じた。」どうしてイエスに直接会わなかった家の者たちも「信じた」のでしょうか。

◆まとめ

あなたはどのような人のことばなら信じることができますか。

ことばを信じられる人がいるということは、あなたにどんな影響を与えるのでしょうか。

パンを下さい

あなたはとてもお腹がすいているとします。まわりの人も同じように空腹で、食べる物はどこにもありません。そんな中、食物を与えてくれる人がいたら、あなたはその人をどのように思うでしょうか？ ヨハネ6章1～14節を見ると、5000人以上の空腹の人々を、イエスが5つのパンと2匹の魚で満腹にされた記事(奇跡)が出てきます。その後群衆は、素晴らしい奇跡を行ったイエスを捜し回り、やっと見つけます。

ヨハネの福音書 6章 25～40節

- (1) 25～33節を読んでみましょう。会話の中から、イエスと人々が求めていたものは、それぞれ何であるか考えてみましょう。

- (2) パンとそれを主食にしている人々との関係について考えてみましょう。
 - a) パンを食べることによって、人間の体はどうなりますか。

 - b) もし食べなかったらどうなりますか。

- (3) 35節でイエスは、ご自身を何と表現していますか。

- (4) 「いのちのパン」について書かれていることをあげてみましょう。(27, 32, 33, 35節)

(5) 40 節に「父のみこころ」とありますが、6 章 25～40 節の中から父（神）が私たちに望んでいることを、動詞に注目してあげてみましょう。（26, 29, 35, 37 節）

◆まとめ

ここで言う「なくなる食物」とは、現代の私たちにとって、どんなことにたとえられるでしょうか。話し合ってみましょう。

質問の 2・4 をふまえて、いのちのパンを食べるとは、私たちにとってどのようなことか考えてみましょう。

あなたは誰ですか？

この箇所は、ヨハネ 7 章からの続きの話としてとらえるとわかりやすいところです。この箇所の会話は、おそらく 7 章で示されている「仮庵の祭り」(7:2、14、37)のときに起こったものです。この祭りの期間中、イスラエルの子どもたちはテントに住み、荒野を放浪した彼らの先祖が火の柱によって導かれたこと(出エジプト 13:21～22)を追体験しました。祭りの最初の晩には、神殿のある場所に下がっている四つの大きなシャンデリアが、火の柱によって神に導かれた人々を思い起こすために照らされていました。これは 8 章 12 節でイエスが語られたことと関係しているようです。イエスが話した献金箱のあるところ(20 節)は、宮の中で最も人々の出入りが多かった場所だったようです。

ヨハネの福音書 8 章 12～30 節

◆8 章 : 12 節～20 節

- (1) イエスは自分自身のことを何と言っていますか。(12 節)

- (2) イエスの権威を論破するために、パリサイ人たちはどのような議論をふきかけましたか。(13 節)

- (3) 13 節のパリサイ人のことばにイエスはどのように答えましたか。

(4) イエスは自分とパリサイ人が行う判断には、どのような違いがあると言っていますか。

(5) イエスは、パリサイ人たちがどんなことを知らないと言っていますか。

◆8章：21節～30節

(6) この段落と、その前の段落との間には時間のずれがあったようです。ここでイエスは、パリサイ人ではなく群衆に話しているようです。イエスは、自分自身と群衆との間にはどのような違いがあると言っていますか。

(7) イエスはどのような警告を彼らに与えていますか。(24節)

(8) 「あなたはだれですか」(25節)の問いを、彼らはどのような気持ちで発したのでしょうか。彼らの質問に対する答えの中で、イエスは父との関係を強調しています。イエスは具体的にどのようなことを言っていますか。

(9) これらのことばを聞いた人々の多くは、イエスを信じました。どうしてそのような反応をしたのでしょうか。(30節)

◆まとめ

1、もしあなたがこの二つの場所にいたとしたら、イエスについてどんなことを知ることができたでしょうか。

2、12節でイエスはパリサイ人たちに自分の紹介をしています。また24節では群衆たちに、罪と死の関係についてと、その解決の道が「わたしを信じる」ことだと述べています。あなたはこの二つのことばを、それぞれどのように考えましたか。

自分の主張を曲げない信者

まず、前課の序論を、この7課のために読み直してください。30、31 節から、この課での話し合いが、イエスと、神殿でイエスの教えを受け入れ信じた人たちとの間のものだとわかります。彼らはイエスをいったん信じた人たちで、さらにイエスの話を聞くことに十分な興味を持っていました。

ヨハネの福音書 8 章 31～59 節

◆8 章 : 31 節～38 節

- (1) イエスは、彼の弟子になった人にはどのような特徴があると言っていますか。
- (2) ユダヤ人たちは 32 節のイエスのことばにどうして反対したのでしょうか。
- (3) イエスは奴隷と自由な人のそれぞれの性質について、どのように語っているのでしょうか。
 - a) 34 節の「罪の奴隷である」とはどのようなことだと思いませんか。
 - b) 32、33、36 節の「自由」は、何からの自由だと思いませんか。
 - c) その自由を与えるのは誰だと言っていますか。

◆8章：39節～47節

(4) a) この部分でのユダヤ人の主張は何ですか。

b) 彼らの主張が真理ではないと、イエスはどのように論じていますか。

(5) 悪魔から出た者の特徴、神から出た者の特徴はそれぞれ何であるとイエスは言っていますか。

◆8章：48節～59節

(6) イエスはどういう点で、自分は神の子であると主張していますか。

a) 30節で信じたはずのユダヤ人たちは、イエスのことばを聞いてどのような行動をとろうとしましたか。

b) 彼らはどうしてこのような行動をとろうとしたのでしょうか。

◆まとめ

1、ユダヤ人たちはいったん信じたものの、イエスのことばにとどまる代わりに、あくまで自分たちの伝統やプライドを守り、自分の主張を曲げなかったようです。彼らはイエスを神と認めようとはしませんでした。あなたは、イエスを神と認めることについてどのように思いますか。

2、31節には、イエスのことばにとどまることが強調されています。イエスのことばにとどまるとは、どういうことなのでしょうか。

彼は何を知ったか？

イエス・キリストは「わたしは世の光です」(ヨハネ 8 章 12 節)と自己紹介をしていますが、その内容がこの課の聖書箇所の中に具体的に示されています。しかし8章を見ると、イエスとユダヤの指導者たちとの間の衝突が深まっている様子がわかります(48、57、59 節)。このような対立の中で9章の出来事が展開されています。この章にはひとりの盲人とイエスの出会いが書かれています。

ヨハネの福音書 9 章 1～12 節

- (1) 1～12 節を読んで、イエスに出会うまでの盲人について分かることをあげてみましょう。(1, 8 節)
- (2) 弟子たちの 2 節の質問を見てください。
 - a) どうして彼らはこのような質問をしたのでしょうか。
 - b) このことばを聞いていた盲人は、どのようなことを感じたでしょう。
- (3) 3 節のイエスの答えを見てください。このイエスのことばを聞いた盲人は、どのようなことを感じたでしょう。

(4) いやされた盲人について見ていきましょう。

a) この人がイエスについて気づかなかったことは何でしょうか。

b) 彼がイエスと出会ったことで知ったこと、自覚したことは何だったでしょう。

(5) 7、11 節の盲人の姿勢に注目してください。彼はどのようにこのような反応を示したのでしょうか。（「そうすれば直る」とは言われていないのに、イエスのことば通りに行動しました。）

◆まとめ

- 1、この盲人にとって、3 節で言われている神のわざとは何だったのでしょうか。
- 2、神のわざが私たちに現れるとはどういうことか、話し合ってみましょう。

はっきりそう言ってください

当時のユダヤ人は、旧約聖書の中のおきてを事細かに守っていました。そして旧約聖書で預言されているキリスト(救世主)の到来を待ち望んでいました。彼らはキリストを、ユダヤ人を解放し、彼らのために王国を建てあげてくれる人だと考えて期待していたのです。

ヨハネの福音書 10 章 19～39 節

◆10 章 : 19 節～30 節

(1) この当時のユダヤ人のイエスに対する態度とは、どういうものだったのでしょうか。

(19～21 節)

(2) イエスは彼らの質問にどう答えていますか。(25～30 節)

(3) イエスがキリストであるという証拠は何だったでしょう。

また、ユダヤ人がその証拠を見ながら信じないのはなぜだとイエスは言っていますか。

(4) ここでいう「羊」には、どのような特徴がありますか。羊とイエスの関係はどういうものだと言えますか。

(5) 29～30 節から、イエスは自分と父の関係をどのようなものだと説明していますか。

◆10 章 : 31 節～39 節

(6) なぜユダヤ人はイエスを石打ちにしようとしたのでしょうか。

(レビ記 24 : 14～16 参照)

◆まとめ

- 1、イエスが言ったことは、ユダヤ人の好奇心を満たしたのでしょうか。イエスは一体何が言いたかったのでしょうか。
- 2、あなたにとって、イエス・キリストとはどういうお方だと思えますか。皆で話し合ってみましょう。

死んで生きる

イエスの約3年間にわたる活動の時期の終わり近くに起きたこの箇所が出来事は、聖書の中でイエスが行った他の「奇跡」の記事と比べても、特に注目に値します。それは、この出来事と意味とが、イエス自身の十字架の死と復活に極めて深いつながりを持つと考えられるからです。ここに登場するラザロ、マリヤ、マルタは、イエスと特に親しい兄弟たちでした。ところが、そのラザロが病気だという知らせがイエスのもとに届きます。愛する者の死という悲惨な出来事に接するときのイエスの発言と行動に注意しながら、一緒に読んでいきましょう。

ヨハネの福音書 11 章 1～6 節、17～44 節

- (1) 3 節「主よ。ご覧ください。あなたが愛しておられる者が病気です。」このことばから考えて、マルタとマリヤがイエスに期待していたことはどのようなことだったと思いますか。
- (2) 3 節「この病気は死で終わるだけのものではなく、神の栄光のためのものです。神の子がそれによって栄光を受けるためです。」このイエスの答えから、どのようなことがわかりますか。
- (3) 5 節「イエスはマルタとその姉妹とラザロとを愛しておられた。」6 節「そのようなわけで、イエスは、…そのおられた所になお二日とどまられた。」愛している人

が病気なら、すぐに行ってあげるのが普通ですが、なぜ「愛しておられた。そのようなわけで、…とどまられた。」と書いてあるのでしょうか。

(4) 21, 32 節「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。」これらの箇所におけるマルタとマリヤのそれぞれの気持ちを想像してみましょう。

(5) 25 節「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」イエスはここで自分について何を言っていますか。これはどういう意味だと思えますか。

(6) 35 節「イエスは涙を流された。」

a) イエスはここでなぜ涙を流されたのでしょうか。

b) イエスが涙を流されたことについて、37 節のような反応をした人の、イエスに対する理解はどのようなものだったと思えますか。

(7) 40 節でイエスは「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか。」と言いました。ここでイエスは、マルタに何を信じることを求めているのでしょうか。

◆まとめ

1、 イエスが強調した「神の栄光」(40 節)は、この箇所ではどのようなかたちで現されたのでしょうか。またそれは何のためだったのでしょうか。

2、 現代において「神の栄光を見る」とは、どのようなことだと思えますか。

すれ違い

イエスは、ラザロを死からよみがえらせるという奇跡を行ったベタニヤ(前課参照)で過ごされた後、「過越の祭り」に出られるため、エルサレムに行かれました。そこではイエスが生まれる以前から、長い間救い主(王様)が待ち望まれており、ユダヤ人はイエスこそメシヤ(救い主)に違いないと思い、彼を大歓迎しました。

ヨハネの福音書 12 章 9～15 節、27～36 節

◆12 章 : 9 節～15 節

(1) a) この箇所から、群衆のイエスに対するイメージはどのようなものだったと想像できますか。

b) ここにいる群衆はイエスに何を期待しているのでしょうか。

◆12 章 : 27 節～28 節

(2) これはイエスの祈りです。イエスは、約 1 週間後にご自分が十字架にかけられ、死ぬこと、そしてその後復活することをすでにご存知でした。

a) このときのイエスの気持ちを想像してみましょう

b) 天から聞こえた声はどのようなことを言っているのでしょうか。ここで言う「栄光」とは、何を示しているのでしょうか。

◆12章：29節

(3) a) 天からの声を聞いた人々の2つの反応をあげてください。

b) その反応の違いは何でしょう。

◆12章：30節～33節

(4) a) イエスは、ご自分が死なれるとき、どのようなことが起こると言われていますか。二つあげてください。

b) それぞれどのような意味なのでしょう。

◆12章：34節

(5) イエスの死について聞いた群衆が、34節で答えていますが、どうして群衆は動揺しているのでしょうか。(群衆の考えていたことと、イエスの行おうとしていることの違いに注目しましょう。)

◆12章：35節～36節

(6) このことばは、イエスが群衆に対して語られた最後の戒めです。

a) 群衆の問いかけに対し、イエスはご自身を何だと言われていますか。

b) イエスはなぜ、「光」「やみ」ということばを用いたのでしょうか。この2つのことばが何を意味するのか考えてみましょう。

◆まとめ

イエスと群衆の考えはどのようにすれ違っていたのでしょうか。

イエスの群衆に対する戒め(35、36節)は、今日の私たちにとってどのような意味がありますか。

洗足

13 章から 16 章は、十字架につけられる直前のイエスと弟子たちとの会話です。この箇所は生前のイエスの最後の教えとして「二階の広間の説教」と呼ばれています。弟子たちは彼らの中における地位と力関係について関心を持つようになっていました。

洗足：その当時の人々はサンダル履きで埃っぽい道を歩いていたため、家で召使いに足を洗わせるのが普通でした。

ヨハネの福音書 13 章 1～15 節

- (1) この箇所を学ぶ前に、弟子たちがこのころ何に心を奪われていたのか、ルカの福音書 22 章 24～27 節を参考にして考えてみてください。
- (2) 弟子たちは、イエスが立ち上がって、たらいと手ぬぐいを手に取られたとき、どう感じたと思いますか。
- (3) 6 節のペテロのことばにはどのような思いが込められていると思いますか。
- (4) 8 節のペテロとイエスのやりとりに注目してみましょう。
 - a) ペテロはどうして「決して私の足を洗わないでください」と言ったのでしょうか。

b) イエスは何のためにペテロの足を洗うと言っていますか。

c) イエスの答えを聞いたペテロは、どのようなことを感じたでしょうか。(9節)

(5) イエスは足を洗うことを通して、何を弟子たちに示したのでしょうか。

(6) 地位を追い求めていた弟子たちは、このイエスの行動と発言から何を学んだでしょうか。

(7) イエスは自ら弟子たちと関わりを持つようにされました。そのイエスについて考えてみましょう。

a) この時イエスの状況はどんなものでしたか。(1～3節)

b) その状況の中で弟子たちの足を洗ったことには、どんな意味があると思いますか。

◆まとめ

1、自ら弟子たちの足を洗われたイエスは、その後彼らに互いに足を洗うよう勧めました。「関係」(8節)を持つことと、「互いに足を洗うべき」(14節)こととは、どういうつながりがあるでしょうか。

3、 イエスが私たちに関わりを持ってくださることは、今日の私たちの日常生活のどんなところからわかりますか。

ピラトの決断

一隊の兵士と祭司長、そしてパリサイ人たちから送られた役人たちは、弟子のユダに引き連れられイエスのところに行き、イエスを逮捕しました。イエスは、まずその年の大祭司カヤパのしゅうとであるアンナスのところ、次にカヤパのところへ連れて行かれて尋問を受けました。さらに場所は、ローマ総督のピラトによるイエスの尋問へと移ります。

ヨハネの福音書 18 章 28～19 章 16 節

◆18 章 : 30、19 : 7、12、21 節

(1) ユダヤ人の祭司長や役人たちは、イエスを訴えた理由をピラトに何と聞いていますか。

◆18 章 : 33 節～37 節

(2) ピラトから尋問や裁判を受けているとき、イエスは自分をどのような者であると言いましたか。

◆18 章 : 38～39 節、19 : 4 節、12 節

(3) 裁判官として、ピラトはイエスをどのように扱おうとしましたか。

◆18章：38節

(4) ここでピラトの言動に注目しましょう。

どうしてピラトはイエスに「真理とは何ですか。」と聞いたのでしょうか。

◆19章：7節～16節

(5) a) ピラトはユダヤ人たちの答えを聞いて、どうして恐れたのでしょうか。

b) ピラトの言っている権威とイエスの言っている権威にはどのような違いがあるのでしょうか。

(6) 19：15、16節のときのピラトはどのような気持ちだったと思いますか。

(7) 結局、ピラトがイエスを十字架刑に処した理由は、一体何だったと思いますか。

◆まとめ

ピラトはここで、イエスが示す真理を取るか、群衆のごきげんを取るかの選択を迫られ、群衆に加担しました。イエスを受け入れることは、ある意味で困難を伴いますが、あなたはどのような決断をしますか。

十字架上のそばにいた人たち

ピラトの決断(前課参照)によってイエスは十字架につけられることになり、刑の執行はゴルゴダという場所で行われることになりました。罪状書きには「ユダヤ人の王イエス」と書かれ、多くの人たちがこの様子を見ていました。(ヨハネ 19:17~22 参照)

ヨハネの福音書 19 章 23~30 節

◆19 章 : 23 節~24 節

- (1) イエスを十字架につけた兵士たちの様子に注目しましょう。
 - a) 兵士たちはどのようなことをしましたか。
 - b) 兵士たちのしたことを見てどのようなことを感じますか。
 - c) 兵士たちの様子を見ていたイエスはどのような気持ちだったのでしょうか。

◆19 章 : 25 節~27 節

- (2) ここには十字架のそばに立っていた人たちが出てきます。彼ら(特にイエスの母)の気持ちは、どのようなものだったのでしょうか。
- (3) 母親や弟子(ヨハネ)に対するイエスのことばや態度を見て、どのようなことを感じますか。

◆19章：28節～30節

(4) かつてイエスは、サマリヤの女の人に「わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことはありません」と語りました。(3課参照)しかし十字架上において、イエス自らが「わたしは渇く」と言っています。このことは何を示しているのでしょうか。

(5) 28, 30節に「完了した」ということばがあります。イエスは何を成し終えたのでしょうか。

◆まとめ

- 1、イエスが十字架につけられたとき、兵士たちのように自分たちの利益や楽しみに夢中になっている人もいれば、マリヤたちのようにイエスのそばに立っていて、イエスから声をかけられた人もいました。もしあなたがこの場にいたとしたら、どのような立場に立つと思いますか。
- 2、イエスが十字架を通して「完了した」ことは、あなたにとってはどのような意味がありますか。

復活したイエス

キリスト教の力は、イエス・キリストのよみがえりです。クリスチャンが信じているのは、死んだイエスではなく、福音書が宣言している復活したイエスです。ヨハネの福音書によると、イエスは復活してから弟子たちに二度現れました。(21:19～25、26～31)ここでは3度目に現れたイエスを見ていきます。あなたも弟子のひとりになったつもりで、この場面を想像しながら読んでください。

ヨハネの福音書 21 章 1～14 節

◆21 章 : 1 節～3 節

(1) a) 以前漁師だったペテロとその仲間が、再び「漁に行く」と言い出したことには、

どういう意味があるのでしょうか。

b) 彼らは復活の主イエスをすでに見ているのに、どうしてこんな反応をしたので

しょうか。

◆21 章 : 4 節～6 節

(2) a) ここでイエスは弟子たちにどのように接触していますか。

b) 弟子たちはこのときのイエスにどのような印象を持ったのでしょうか。

◆21章：7節～8節

(3) a) 「愛されたあの弟子」は、どうしてここで「主です」と言えたのでしょうか。

b) どうしてペテロは、上着をまとって湖に飛び込んだのでしょうか。

◆21章：9節～14節

(4) もしあなたが弟子のひとりであったら、イエスのことば、行為はどんな点であり
がたいものだったのでしょうか。自由に話し合ってください。

(5) 1～14節のイエスの行動のどんな点から、イエスが復活後も肉体を持った人間で
あったことがわかりますか。

◆まとめ

1、イエスの復活がどれほど意味あることなのかを、後に復活のイエスを信じたパウロ
も告白しています。第一コリント 15章 12～19節を読んで、パウロの主張をま
とめてください。

2、イエスの復活が事実だと認めたことは、弟子たちにとって、キリスト教を他の人に
伝えるための大きな力となりました。あなたにとっては、イエスの復活はどのよう
な意味がありますか。

神からの贈り物 ～ヨハネの福音書～

1991年4月20日 初版発行

2000年11月31日 改訂第4版発行

2002年2月11日 改訂第4版2刷

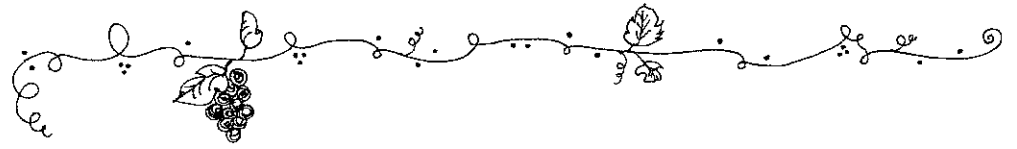
発行者 キリスト者学生会主事会

発行所 キリスト者学生会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル内

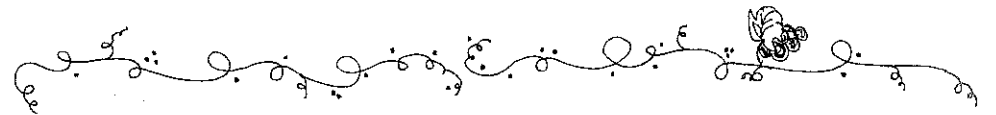
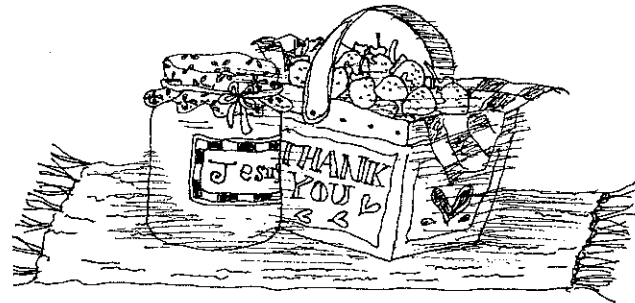
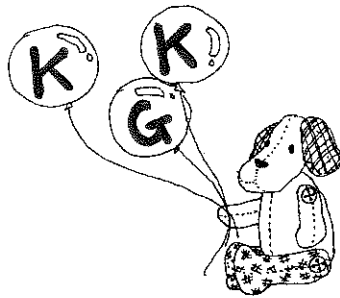
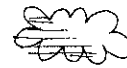
Tel 03-3294-6916 Fax 03-3294-6050 e-mail kgkjapan@246.ne.jp

定価 100円



Gifts from GOD

神からの贈り物



Gifts from GOD

神からの贈り物 司会者の手引き

キリスト者学生会（KGK）の働きは、大学内でのキリスト者学生の活動が原点です。全国で約 183 大学にコンタクトを取っているグループがあり、活動の柱は聖書研究と祈り会です。この手引きは、少しでも大学内の伝道的な聖書研究の手助けになればと生まれました。

◆作成で心掛けたこと

本書はヨハネの福音書から、イエスと会話している人（人たちが）を中心に描かれている箇所を選びました。聖書研究をしている自分が、もしその会話の中にいたらどう反応し何を感じるかという質問に力点を置きました。作成の上では、できるだけ未信者の学生が聞いてもわかるように、いわゆるキリスト教用語をできるだけ避けるよう努めました。

◆本手引書を使う司会者のために

この手引書においては、どの課にも司会者の手引きを付けましたので、必要に応じて参照してください。手引書を使用する司会者の方は、以下の点に留意してもらいたいと思います。

- a. あらかじめ聖書箇所と質問文を熟読してください。
- b. もし質問文が適当でないと思ったら、できるだけ自分が説明しやすい文章に変えてみてください。
- c. 1時間以内で聖書研究が終わるように意図していますので、質問の数はできるだけ少なくしました。もう少し必要だと思ったら、質問を加えてください。
- d. 司会者の手引きは、質問文の参考になるように設けています。これを読んでただ一方的にしゃべるだけでなく、参加者に考えてもらいたいと思うなら、この手引きを参考にして新しい質問を考えてみるのもよいでしょう。

◆信じる決心をしたい、という人のフォローアップについて

テキストと一緒に学ぶ中で、もし「イエス・キリストを信じてみたい」という人がいたら、私たちはその人をどのように導くことができるでしょうか。「信じたい」という思いを持つのは、その人の努力や、その人と関わる私たちの人徳や熱心な誘いによるものでなく、聖霊が働いておられるからです。それゆえ接する私たちも聖霊により頼みつつ、厳粛な思いで関わりたいものです。特に、その場合、以下の3つのことを心がけましょう。

どうして信じたいと思ったのかを聞く

「聞く」ことは、相手の考え、思いを整理してあげる良き助けとなります。信じる決心はその人の人生にとっての一大転換です。ある人はそれまでの自分の歩みについて長々と話し出すかもしれません。その場合は時間がかかりますが、相手が心を開き大切なことを話しているのです。じっくりと聞きましょう。

何を信じるのかを聞く

信じたいと思う人の中で、感情的に高ぶって、その勢いで信じたいと思う人、またワラにもする思いで、とにかく信じたいという人もいるでしょう。そのときは、相手の気持ちを大切にしつつ（決して否定しないで）、信じる内容（神が天地万物を創造されたこと、人間の罪の問題、その罪の解決としてのイエス・キリストの十字架と復活）を明確に示してあげてください。

みことばによる宣教と祈りに心がける

信じる決心が人間からの思いによるのではなく、神からの招きに対する応答であることを確信してもらうために、みことばを示すことが大切です。紹介するみことばは、自分自身が確信を持ってお勧めできるものが良いでしょう。また、もし相手が何か心に残るみことばがあるようなら、一緒に味わい、その後にイエス・キリストに対する信仰の決心にふさわしいみことばを、

必要に応じて示すと良いでしょう。(参照「ピリポは口を開き、この聖句から始めて、イエスのことを彼に宣べ伝えた」使徒の働き 8 章 35 節) 私たちは、いつもの確なみことばを紹介できるよう、祈り備えておきたいものです。

司会者の手引き

Chapter 1 必要を満たす人とは

- (1) はじめに…イエスと彼の母との短い会話を、2人の人にそれぞれの役になってもらって読んでもらおうとよいでしょう。
- (2) 質問 3…4 節の「わたしの時」とは、後に起こるイエスの十字架の受難を指すと考えられます。4 節の意味は「わたしの関心とあなたの関心は別なのです。心配は無用です。私にまかせておいてください」となるという説もあります。
- (3) 「ぶどう酒」…イエスの十字架の犠牲によって成就される完全な救い、イエスの血潮を象徴します。

Chapter 2 常識にとらわれた人

- (1) はじめに…1～16 節の会話の部分を、2人の人に会話形式で読んでもらいましょう。繰り返されている文字やことば遣いに注意して、イエスがここで扱っている中心的問題は何かを考えてみましょう。
- (2) 質問 3…5 節における「水…によって生まれ」とは、悔い改めを象徴する洗礼に言及しているのかもしれませんが、8 節でイエスは、聖霊によって新しく生まれることを、風を用いて教えています。(「風」と「御霊」は、同じギリシャ語です。)
- (3) 質問 4…ニコデモは常識的な人だったようです。しかし、その常識のせいで、イエスのことばを素直に受け入れることができず、最初から疑ってかかる態度になってしまいま

した。

- (4) 質問5 b) …3章14～15節は、民数記21章4～9節の引用です。このテキストは未信者を対象にしているので、ここに深入りすることを避けました。しかし必要なら、モーセが荒野で蛇を上げた出来事（その蛇を見た者は蛇に噛まれても生き残ったこと）は、後にイエスご自身が経験された十字架のモデルであることを説明してください。
- (5) まとめ2…福音が提示している内容は、極めて論理的なものです。しかし信じるということは、理性を超えた決断をとるものことです。司会者は、その両面があることに留意しつつ、このディスカッションを進めてください。

Chapter 3 この方がキリストなのでしょうか？

- (1) 質問4…ここでは、単に自分に関すること・自分のことを言い当てられたのではなくて、自分の罪（最も暗い部分）をイエスに言い当てられた、ということをご参考にしてください。
- (2) 質問5…当時のユダヤ人とサマリア人の礼拝場所は、決定的に違っていました。しかしイエスはここで、礼拝場所ではなく、礼拝する人のあり方を強調しています。
- (3) まとめ2…全体を通して、この女の人のイエスに対する呼び掛けが「先生」（11、15、19節）→「預言者」（19節）→「キリスト（メシヤ）」（29節）と変わっていったことに注意しましょう。結論として、女の礼拝の対象が、「男」（一時的なもの・「井戸」にたとえられる）から、「イエス・キリスト」（永遠的なもの・「泉」にたとえられる）に変わっていったことを強調しましょう。

Chapter 4 ことばを信じるとは

- (1) 質問1…ガリラヤのカナは、イエスが第一のしるしを行った場所で、イエスの評判がとて高かったところでした。

- (2) 質問4…ここでは、役人が信じたから子どもが直ったのではなく、50節のイエスの、ことばの権威によって直ったことを強調してください。
- (3) まとめ…この課の主題は「ことばを信じる」ことです。イエスのことばがどんなに不合理で根拠がないように思えても、その通りになることを信じるのが、大きな祝福につながるのです。

Chapter 5 パンを下さい

- (1) 質問1…群衆は、パンを手に入れることに執着していることがわかります。当時の人々にとって、日々の食物（パン）を得ることは切実な問題でした。
- (2) 質問2…特にパンについていろいろ思うことを自由に話し合ってください。お米に置き換えて考えても良いでしょう。
- (3) 質問5…ここでは、具体的に動詞だけをあげてみましょう。
- (4) まとめ2…イエスが35節で言われた意味を掘り下げて考えてみると良いでしょう。

Chapter 6 あなたは誰ですか？

- (1) 質問4…は「さばき」とせず「判断」としました。イエスが15、16節で言っている「さばき」は、人間的レベルでなく、神だから人をさばく（判断する）ことができる、と考えるのが適当です。この質問にはあまりとどまらず、先に進むようにしてください。
- (2) 質問9…イエスが、ユダヤ人が信じていた父なる神との関係を明確にした（26、28、29節）ことに、注意を向けると良いでしょう。
- (3) まとめ2…これらのみことばは、二つとも意味が深いことばなので、どちらか一つにしぼっても良いかもしれません。

Chapter 7 自分の主張を曲げない信者

- (1) 質問2…ユダヤ人は、自分たちがアブラハムの正統な子孫（自由の子）であることに誇りを持っていました。彼らは、アブラハムを父（53節）と呼んでいました。
- (2) 質問4…彼らはアブラハムの子孫であることに誇りを持ち、神を良く知っているつもりでした。だからこれらのことを激しく主張したのです。
- (3) 質問6…b) 旧約聖書でも、自分を神と等しい地位に置く行為は不敬罪・冒瀆罪と考えられており、石打ちの刑という厳しい処刑が定められていました。
- (4) まとめ1…このディスカッションの中で、メンバーひとりひとりの神観について聞いてみると良いでしょう。
- (5) まとめ2…この課で学んだイエスの主張を参考にするように勧めてください。それに加えてネ1章1節も参考にすると良いでしょう。なお、クリスチャンは、この話し合いをあかしの機会として用いてください。

Chapter 8 彼は何を知ったか？

- (1) 司会者は、全体の理解のために準備の段階で9章全体を読むと良いでしょう。
- (2) 質問1…ここでは、この盲人の気持ちがどうだったのかを考えてもらうと良いでしょう。
- (3) 質問2…この当時は、不幸は必ず何かの原因に対する罰であり、財力や権力は、その人の正しさに対する神様の報いであるという認識がありました。ここでは、このことばを聞いていた盲人がどのように感じたかを考えてみると良いでしょう。
- (4) 質問5…25、31、33節を引用すると、参加者の理解の助けになるでしょう。
- (5) まとめ1…盲人が、目が見えるようになったことにより、イエスの何を知ったかに留意するように勧めてください。
- (6) まとめ2…クリスチャンが、神様との出会いをあかしできると良いでしょう。

Chapter 9 はっきりそう言ってください

- (1) 質問6…ユダヤ人の習慣では、自らを神と同一視するような存在は許しがたいものでした。イエスは彼らの態度に対して、35～36節、37～38節の「もし…」で始まるみことばで、ユダヤ人に2つの根拠から反論しました。一つ目は、旧約聖書からの引用でした。これはユダヤ人自身がイエスを石打ちにする理由にしていたものです。二つ目の根拠は、イエスが父のみわざを行っているということでした。
- (2) まとめ1…人には知識を満たしたいという欲求があるものですが、そのような好奇心は、知識を得ることは喜んで、実際に自分がそれに関わることは喜ばないようです。

Chapter 10 死んで生きる

- (1) はじめに…導入の部分で、日ごろ、それぞれが死についてどのように考えているか、話し合ってみるのも良いでしょう。
- (2) 質問3…ここでは答えがストレートに出てこなくても、接続詞「そのようなわけで」が、一見矛盾したことばであることに着目できれば良いでしょう。
- (3) 質問6…33、38節「霊の憤りを覚え、心の動揺を感じて」「心のうちに憤りを覚え」これらの箇所での意味は、おおよそ以下のような諸説に解釈されています。
 - ① マリヤといっしょに来たユダヤ人たちの芝居がかった泣きっぷりに対して義憤を覚えた。
 - ② 泣き叫ぶ人々の悲しみに対して深い人間的同情と共感を覚えた。
 - ③ 人類を支配する罪とその結果としての死に対する、使命感をともなった義憤を覚えた。
- (4) 質問7…奇跡の理解について人間の限界があることがわかります。

(質問6 b) しかしイエスは人間がどうしても解決できない「死」をご自身が克服できると主張しました。
- (5) まとめ2…この質問は、クリスチャンが自分の味わった「神の栄光」をあかしできるように設けました。

Chapter11 すれ違い

- (1) はじめに…旧約聖書のモーセの時代、かもいと門柱に羊の血をぬったユダヤ人の家はエジプトに及んだ神の刑罰をまぬがれ、エジプトからの脱出に成功しました。ユダヤ人がこの出来事を記念して行っていたのが、過越の祭りでした。(出エジプト記 12 章 21～35 節参照)
- (2) 質問 1…13 節の叫びは、詩篇 118 章 25、26 節からの引用ですが、「イスラエルの王に」のことばは、群衆が自分たちで付け加えたものです。このことから、イエスが「イスラエルの王」となってくれるのを、人々が期待していたことが読み取れます。このころイスラエルはローマの支配下にあり、人々はとても苦しんでいました。ユダヤの人々は、イエスが自分たちの王となってくれることによって、自分たちを苦しみから救ってくれることを期待していました。
- (3) 質問 3…a) ここでは様々な解釈があげられると思いますので、具体的に色々あげてみるとよいでしょう。
- (4) 質問 4…b) 2つの反応が、自然的・超自然的なものであることに注目してください。
- (5) 質問 4…32、35 節の「上げられる」とは、地上からいなくなる(死ぬ)ということの意味しています。
- (6) まとめ…クリスチャンのあかしの機会として用いてください。

Chapter12 洗足

- (1) 質問 5…34 節も参考にするよう勧めてください。
- (2) 質問 7…参加者にこの出来事が十字架の直前であることを留意してもらってください。洗足には、イエスが弟子たちの罪をぬぐおうという意味も込められていたのです。
- (3) まとめ 2…クリスチャンのあかしの機会として用いてください。

Chapter13 ピラトの決断

- (1) 質問1…ユダヤ人は、2つのことでイエスを訴えています。一つ目はイエスが自分を神の子だとしていること。もう一つはイエスが自分を王だと言ってカイザルにそむいていること。最初の点については、すでに9課で、イエス自身がはっきりとその訴えを無効にしています。また、二つ目の点でも、イエスは再三自分の国がこの世の国ではないと言っていますから、ユダヤ人たちの訴えには説得力がありません。
- (2) 質問3…イエスが自分を王だとし、カイザルにそむいているとユダヤ人たちの訴えている点に関して、ピラトは、イエスの言う「国」とか「王」が、ユダヤ人の言っているようなものでないことをイエスから直接聞いて知りました。ヨハネ19章19～22節の罪状書きの件でピラトとユダヤ人が対立していることは、その現れでしょう。
- (3) 質問4…この質問では、いろいろな答えが考えられますが、裁判官として、ピラトは真理や正義について常に関心を持っていたのかもしれませんが。
- (4) 質問7…ピラトはイエスの正しさを認めていながら、群衆の扇動に負けてしまいました。かつてピラトは、他の地での失敗によって、パレスチナの地へ回されたと言われています。ですからこのユダヤの地において、もしも群衆たちの暴動が起こり治安の維持ができなくなると、さらに彼の立場が危うくなる可能性があったと考えられます。ここにも大きな要因があったのでしょう。
- (5) まとめ…この質問においては、クリスチャンがイエスを信じるときにどんな決断をしたか、また信仰生活を送っている上でどんな戦いがあるかを自由に話すように進めてください。なお、聖研グループに求道者がいる場合は、この話し合いの後で個人的に話しをするとよいでしょう。

Chapter14 十字架上のイエスのそばにいた人たち

- (1) 質問1 a) …この当時、兵士たちは仕事の特別報酬として囚人の着物を分け合うことができました。
- (2) 質問2…「女の方」(26節)という表現は、尊敬を示す言い方です。(ヨハネ2章4節参照)
- (3) 質問4…24節は、詩22篇18節の成就であり、28節「わたしは渇く」とは、詩69篇21節の成就であることを確認すると良いでしょう。そこから、人間の思いをはるかに越えた神のご計画を知ることができます。(質問1を考える時のヒントにもなるでしょう) また「渇く」(28節)とは、肉体的な苦しみとともに、霊的な苦しみ(神から切り離された状態)でもあります。イエスは十字架にかかることで、人間の罪の刑罰である渇きの身代わりとなり、人を渇きから解放する道を備えられました。
- (4) 質問5…「完了した」(30節)とは「主がなされた」という意味でもあります。つまり、神が立てた救いの計画が、神のひとり子イエスの十字架刑によって成し遂げられたことを意味しているのです。
- (5) まとめ1…ここでは、ただ兵士たちを非情な者と評価するのではなく、自分たちも同じような者であることを意識してもらおうと良いでしょう。
- (6) まとめ2…クリスチャンのあかしの機会として用いてください。

Chapter15 復活したイエス

- (1) 質問3 a) …ルカ5章1～11節を参照してください。
- (2) まとめ2…この質問は、クリスチャンが自分の生き方をあかしするチャンスとして用いてください。